

◎ 平成26年度 項目別実施結果

1 資料の収集・保存と活用（「未来に伝える博物館」）

活動目標項目		内容	評価指標	指標定義・説明	26年度目標値	26年度実績	備考（26年度）
1-1	継続的な資料の収集	資料の収集と保存に関する事業方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	対前年度増加点数	(当該年度の登録資料点数) - (前年度の登録資料点数)	6,000点/年	9989点	参考値 H24年度 6,394点 H25年度 12,985点 年報Ⅱ3(3) 収蔵資料数より
1-2	寄贈、移管等による資料の受入の促進	県内の自然科学的特徴の証拠となる資料を中心として、それらの貴重な資料の安全な保管、ならびにその展示公開と研究促進を図るため、寄贈や移管等による資料の受入を促進します。	委託製作等による資料取得件数	委託製作や購入等によって、当該年度に取得した資料の件数	実績値を記入	15点	年報Ⅱ3(4) 資料購入(5) 委託(製作・資料整理)よりカウント
			新規寄贈件数	当該年度に寄贈手続きされた資料の件数	実績値を記入	50件3513点	年報Ⅱ3(6) 寄贈資料・管理移管資料よりカウント
			新規移管件数	当該年度に移管手続きされた資料の件数	実績値を記入	3件640点	年報Ⅱ3(6) 寄贈資料・管理移管資料よりカウント
1-3	収集資料の整理とデータベースへの登録促進	受け入れた収蔵資料の迅速な整理・登録を進めるとともに、収蔵資料データベースの充実化を促進します。	収蔵資料のデータ登録状況		実績値を記入	9989件	
			収蔵資料の画像登録状況	(画像登録点数/収蔵資料点数) × 100	前年比2%増	835件/年	年間資料登録件数の8.4%
			収蔵資料データベースのバックアップ状況	当該年度における、収蔵資料データベースのバックアップ実施状況とその将来構想	館外でのバックアップ	DATに保存したデータを館内で保管	
1-4	文献資料の充実	二次資料の一部として、博物館業務に不可欠な文献資料について、継続的に収集と保存を行い、それらを元に一次資料の効果的な活用を行います。	新規購入図書などの数 (学術雑誌含む)	当該年度における購入図書などの数	実績値を記入	518冊	年報Ⅱ3(14) 文献資料等の充実より
			交換受入図書などの数	当該年度における交換による受入図書などの数	実績値を記入	463冊	交換館数 国内351機関 海外19機関 年報未記載(図書資料管理システムより抽出)
			寄贈受入図書などの数	当該年度における寄贈による受入図書などの数	実績値を記入	2612冊	年報Ⅱ3(14) 文献資料等の充実より
1-5	資料の安全な保管	第1～第3の各収蔵庫や展示室の点検や資料燻蒸等により、収蔵資料の安全な保管を図ります。	収蔵庫の温・湿度管理の状況	温・湿度それぞれの基準値とその動向(温度:18～20℃;湿度:50～55%)	18℃、50%	目標値通り	年報Ⅱ3(1) 資料管理より
			管理簿を用いた各収蔵庫利用状況の管理	館職員以外が立ち入る場合は、記録簿に記入	実績値を記入	各収蔵庫の入口に設置し、外部利用者をチェック	H24年度より設置
			資料燻蒸の実施	当該年度における、収蔵庫燻蒸ならびに燻蒸庫燻蒸の実施状況	収蔵庫燻蒸(1回/年)	6/16-22に実施	第二収蔵庫及び常設展2階霊長類剥製:使用薬剤:アルブ(第二収蔵庫)ブングノン(霊長類剥製) 年報Ⅱ3(1) 資料管理より
					燻蒸庫燻蒸(2回以上/年)	10/14-16、2/23-27に実施	年2回:使用薬剤:エキヒュームS 年報Ⅱ3(1) 資料管理より
			管理に注意を要する収蔵資料の保管	当該年度における、注意を要する収蔵資料の保管状況の点検	点検2回/年	点検年2回	平成24年度より実施 点検月 8月 2月
			基準標本の保管	当該年度における、基準標本の保管状況	点検1回/年	基準標本76点(2月末日確認)	点検月 2月 正基準標本36点 等価基準標本1点 従基準標本26点 従基準標本(別性)12点 同地基準標本1点 年報Ⅱ3(2) 基準標本と天然記念物の状況より

活動目標項目		内容	評価指標	指標定義・説明	26年度目標値	26年度実績	備考(26年度)
			天然記念物の保管	当該年度における、天然記念物の保管状況	点検1回/年	国・県指定天然記念物標本25点(2月末日確認)	点検月 2月 国指定特別天然記念物6点 国指定天然記念物10点 県指定天然記念物9点 年報II3(2)基準標本と天然記念物の状況より
			展示室における保管	館職員による点検状況	1回/月	1回/月実施	点検結果については、館内供覧を実施し、常設展担当者が取り纏めている。 年報II1(1)常設展示より
1-6	常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室での安全な資料の保存環境を確保します。	文化財害虫への対策	常設展示資料への燻蒸実施状況、貴重資料の燻蒸ならびに館内における文化財害虫等の忌避対策の実施状況	貴重資料の燻蒸(1回/年)	常設展2階霊長類剥製展示箇所の霊長類剥製を収蔵庫燻蒸時に燻蒸した	使用薬剤: プンガノン 年報II3(1)資料管理より
					忌避対策(2回/年)	・粘着式トラップの設置 ・除塵粘着シートのマットを設置	年報II3(1)資料管理より
			温・湿度の管理	展示室内の温・湿度の管理実施状況	1F展示室、2F展示室、企画展示室、エントランスホール	年報記載(季節による2℃ in temp. -3% RH. の範囲内の変化あり)	年報II3(1)資料管理より
1-7	収蔵スペースの確保	将来の収蔵資料の増加に備え、収蔵スペースの確保に向けた方策を探ります。	館外保管施設	当該年度における、館外保管施設の使用状況	当該年度の継続状況	前年度から継続して富岡土木事務所倉庫2の2階を使用	年報未記載
			収蔵設備の拡張	館内外を含め、標本収蔵設備の確保についての検討状況	本項目と関係する予算項目の設置	群馬県富岡合同庁舎など新規収蔵設備獲得の検討	ESCO事業完了に伴い、地下機械室に生み出された空きスペースに資料箱にして約340箱分を確保でき、主に岩石標本の保管に当てることができた。
1-8	展示における公開促進	館内の常設展示や企画展での展示、ならびに他館展示への貸出などに用いることにより、収蔵資料の活用を図ります。	常設展示室展示資料更新件数	当該年度に常設展示の更新を実施した件数	5件/年	14件(剥製交換1件を含む)	年報II1(1)常設展示より
			企画展展示資料点数	当該年度の企画展に展示された収蔵資料数(本館収蔵の展示資料数)	450点/年	第46回約5,280点(約5,268点) 第47回173点(151点) 第48回400点(206点) 特別展示243点(80点)	年報II1(2)企画展示(3)特別展示より ※24年度から継続する春の企画展は前年度でカウント
			展示のための貸出件数	当該年度に、展示を目的として貸し出された資料の件数	実績値を記入	24件:合計点数は343点	年報II3(8)貸出資料より 展示用を抽出
			移動博物館等での利用点数	当該年度に移動博物館や共催事業で使用した資料の点数	250点/年	移動博333点 他館連携出前授業での展示資料数48点(各回8点づつ)	年報II2(1)教育普及⑩出張展示より
1-9	レファレンスのための資料公開の促進	外部研究者やマスメディア等からの要望に基づいて、特別観覧等により収蔵資料の適切な活用を図ります。	研究目的の特別観覧件数	当該年度に許可した、研究目的の特別観覧件数	実績値を記入	特別観覧8件	年報II3(10)特別観覧より抽出
			研究目的の特別観覧に基づく成果の公表状況	当該年度に公表された、特別観覧に基づく研究成果の件数	実績値を記入	不明	成果の公表については未確認
			その他の特別観覧件数	当該年度に許可した非研究目的(マスメディア等)の特別観覧件数	実績値を記入	特別観覧4件	年報II3(10)特別観覧より抽出
			外部データベースへの標本情報提供件数	SNet、GBIF等の外部データベースに新規公開した収蔵情報件数	5000件/年	5,585件(合計70,559件)	年報II3(13)科学系博物館情報ネットワーク…より

2 調査研究 (「魅力を引き出す博物館」)

活動目標項目		内容	評価指標	指標定義・説明	26年度目標値	26年度実績	備考(26年度)
2-1	調査研究活動の推進	自然史調査研究および分野別調査研究等を積極的に行い、群馬県における自然史調査研究、博物館学の専門機関として中核を担う活動を推進します。	自然史調査研究の実施状況	定点地域における動植物、古生物、岩石・鉱物等の組織的な調査		調査回数：37回	
			分野別調査研究の実施状況	職員の担当業務に関する調査		10分野19調査	
			一般県民等との協働調査の実施状況	一般県民等との連携件数	3件/年	4件	
2-2	調査研究成果の公表	館出版物による研究成果の公表および、学会発表、学術論文等により調査研究成果を公表するとともに、展示や教育普及活動を通して成果の活用を図ります。	図書・雑誌等の一般著述	本、雑誌、新聞等での一般向け解説	10本/年	17本/年	書籍著作4本、新聞記事等12本、科学番組1本
			学会等での発表	各種学会、研究会での口頭、ポスター発表等の総数	5回/年	20回/年	うち9件館主催研究発表会での発表
			学術論文、報告数	論文、報告の総数	10本/年	19本/年	
			展示活動	展示の件数	2件/年	3件/年	群馬をいまを伝える発表会を含む
			教育普及活動	講演会・講座などの件数	10件/年	19件/年	
2-3	外部研究機関等との連携の推進	他の博物館、研究機関、試験研究機関、大学、研究団体、学会等と連携した調査研究等を推進します。	連携調査研究数	博物館、研究機関、試験研究機関等との連携推進		40研究	
2-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	(独)日本学術振興会の補助金、民間・行政等の研究助成金等の外部資金を獲得し、調査研究活動を推進します。	(独)日本学術振興会申請・採択数	文部科学省・独立行政法人日本学術振興会の科学研究費補助金、奨励研究費	申請3・採択1件/年	申請2・採択0(継続2)	
			その他調査研究助成金獲得状況				6件

3 展示 (「知を広め、高める博物館」)

活動目標項目		内容	評価指標	指標定義・説明	26年度目標値	26年度実績	備考(26年度)
3-1	常設展の改善・充実	新規資料の追加・更新, 研究成果の反映, 展示方法の改善などにより, 来館者の満足度の向上を図ります.	観覧者数	年間の観覧者数	17万人	16万7500人	
			リピーター率	アンケート回答者に占めるリピーターの割合	60%	63%	
			来館者の満足度	アンケート回答者による満足度の評価	90%	99, 5%	
			追加・更新資料数	常設展における資料の追加・更新資料数	10点	13点	
3-2	常設展の保守・点検の充実	常に理想的な状態で来館者の方に展示を見ていただけるように心がけます	迅速な障害対応			189件	
			展示室内の点検	解説員・案内員による展示室内のチェック	随時	随時	
				展示担当者による展示室内のチェック	各担当ごとに1回/週	各担当ごとに1回/週	
			展示資料周辺の清掃	定期的な清掃	各担当ごとに1回/月	各担当ごとに1回/月	
3-3	魅力ある企画展・特別展の開催	来館者のニーズに応え, 最新の研究成果を反映し, また, 多様なテーマでの魅力ある企画展・特別展を実施します.	企画展観覧者数	過去の企画展での一日平均観覧者数との比較	100%	100%	
			企画展満足度	企画展アンケート回答者による満足度の評価	80%	82%	
			企画展等実施回数	企画展示室での企画展・特別展等の実施回数	4回/年	4回/年	
3-4	多様な展示の開催促進	常設展・企画展以外にも, 適宜魅力ある情報の提供を心がけます	展示開催回数		7回/年	10回/年	
3-5	館外での展示の充実	館内にとどまらず, 館外での展示の促進・充実を図ります.	実施回数	移動博物館など, 館外での展示回数	7回/年	10回/年	
			観覧者の満足度	アンケート回答者による満足度の評価	80%	100%	
3-6	解説業務の充実	解説業務の充実を図り, 観覧者の満足度の向上を図ります	展示解説の実施状況	定時解説の実施状況	2,500人/年	2,181人/年	
				随時解説の実施状況	40,000人/年	36,700人/年	
				スポット解説の実施状況	200回/年	239回/年	
			観覧者満足度	アンケートにおける解説業務の満足度	80%	100%	
			解説・接遇研修の実施	研修の実施回数	15回	20回	
			解説業務の質的向上	解説業務自己研修 職員によるクオリティチェック	随時 随時	随時 随時	
3-7	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	開館20周年を目標として, 常設展示のリニューアルを行うため, リニューアルに向けた計画・検討作業を促進します	リニューアルに向けた他館調査	先進地視察	随時	随時	

4 教育普及 (「知を広め、知を高める博物館」)

活動目標項目		内容	評価指標	指標定義・説明	26年度目標値	26年度実績	備考(26年度)
4-1	学びの魅力を感じられる事業の推進	県民のニーズを把握するとともに、多様な普及事業を企画し、多様な学習の機会を提供します。	普及事業実施件数	普及事業件数 (サイエンスサタデーを除く)	30件/年	56件	ファミリー自然観察会、天体観望会、講演会、自然教室、博物館探検隊、ナイトツアー、バックヤードツアー、教職員実技研修会、大人の自然史倶楽部*
				サイエンスサタデー件数	45件/年	49件	
				ビデオ上映会件数	175件/年	164件	
			普及事業参加者数	普及事業参加者数 (サイエンスサタデーを除く)	1400名/年	1276名	*と同じ
				サイエンスサタデー参加者数	1600名/年	1962名	
				ビデオ上映会参加者数	4500名/年	3013名	
			参加者の満足度	事後アンケート(抽出)による満足回答者の割合	80%	96%	*の各事業のアンケート結果より(抽出) *年報参照
新規・見直し事業件数		20件/年	18件				
4-2	学校教育支援の推進	学校・教科主任会などへの講師派遣・館内での講師対応、資料貸出、館内授業や教職員研修、遠足、職場体験等を受け入れ、幼小中高の学校教育を支援します。	学校教育支援事業件数	学校・教科主任会などへの講師派遣・館内での講師対応件数	40件/年	68件	「6-2 他機関が主催する講演会・研修会等への講師派遣」を除く
				館内授業件数	70件/年	71件	
				ビデオ上映件数	40件/年	25件	
				資料貸出件数	55件/年	80件	
			職場体験学校件数	10件/年	11件		
教員・生徒の満足度	館内授業、資料貸出実施後のアンケートによる満足度	80%	100%				
4-3	ボランティア活動の充実と活性化	ボランティアの指導・育成に努め、自主的な活動を促し、県民のボランティア活動の充実、活性化を図ります。	活性化に向けた打合せや活動件数	全体会、運営委員会、広報活動等の回数	3回/年	2回	
			ボランティア研修回数		5回/年	6回	
			ボランティア登録者数	ボランティアの総数	120名/年	117名	
			ボランティア活動人数(延べ)	館内におけるボランティア活動人数(延べ)	600名/年	639名	
	館外におけるボランティア活動人数(延べ)	20名/年	0名	富岡市ボランティアフェスタ等実施無し			
4-4	友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努め、自主的な活動を支援し、友の会の活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会の会員総数	250名/年	292名	
			会員の継続率	当該年度会員に占める前年度会員の割合	60%	59%	
			常設展・企画展観覧者率	観覧者として入館した会員の割合	50%	75%	
			友の会行事への講師支援			2回	長谷川名誉館長・菅原主任

5 情報の発信と公開（「知を広め、高める博物館」）

活動目標項目		内容	評価指標	指標定義・説明	26年度目標値	26年度実績	備考(26年度)
5-1	各種刊行物の充実	研究報告や博物館だよりなどを用いて、積極的に情報発信を行います。	調査研究にかかわる館の刊行物の発行件数	研究報告・調査報告などの発行件数	1件/年	1件	
			普及にかかわる館の刊行物の発行件数	図録やポスター、リーフレットなどの発行件数	18件/年	21件	
5-2	広報活動の充実	館刊行物の配布ルートの新規開拓や、新規来館団体増加のために、教育委員会や旅行会社等に出向きPR活動を行います。	教育委員会や旅行会社等への訪問件数	教育委員会や旅行会社等へ訪問した件数	30件/年	36件	
5-3	インターネットによる情報発信の推進	ホームページやメールマガジンの配信によって、最新のイベント情報提供等の充実を図ります。	HPアクセス数	当該年度のアクセス(Total Visits)件数	300,000件/年	310,124件	
			HPへの情報掲載件数	当該年度の新規作成や更新した件数	60件/年	117件	
			メールマガジンの配信件数	当該年度末時点のメールマガジン配信回数	12回/年		
5-4	メディアへの情報資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報をメディアに積極的に資料提供するように努めます。	メディアへの情報資料掲載件数	県広報等から発信した情報資料の掲載件数	100件/年	60件	
				上記以外から発信した情報資料の掲載件数	50件/年	101件	
			メディアの取材対応件数	メディアの取材対応件数	20件/年	34件	

6 シンクタンクとしての社会貢献（「知を広め、高める博物館」）

活動目標項目		内容	評価指標	指標定義・説明	26年度目標値	26年度実績	備考(26年度)
6-1	レファレンス利用者の拡大	マスコミを含む来館や電話やメール等での質問にも適切に対応し、「自然史に関わることなら、親切に相談にのってもらえる博物館」との評価の定着を図ります。	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	200件/年	147	レファレンス対応もとファイル
6-2	自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受諾件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く	10件/年	28	県、市町村等の委員
			機関・団体等への情報提供数	自治体やその他の機関・団体からの問い合わせによる回答数	—	51	民間機関、公共団体、博物館施設
6-3	講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研究会等に博物館職員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	幼小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数	20件/年	28	
6-4	大学教育への寄与	大学生・院生の研究指導、博物館実習生等の受け入れ等により、大学教育に寄与します。	博物館実習等の受入人数		10人/年	14	
			学生・院生指導件数	対面による指導件数	—	1人	学芸職員に直接確認
			大学生への講義・実習回数	博物館または大学等での実施回数	10回/年	6回	年報：教育支援 他
6-5	学会・研究会への寄与	学会・研究会・報告会等を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等の開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数	1件/年	2件	コケフォーレ2014in 群馬ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会2014
			学会等の役員等の受諾数	学会・研究会における役員・委員等の受諾数	5件/年	9件	すげの会 哺乳類学会 日本古生物学会 自然史学会連合
			学会等加入数	当館が加入している学会・研究会・協議会等の件数	3件/年	10件	
6-6	博物館施設等との連携強化	国内でも有数な自然系博物館として、県内外の博物館施設等への資料の貸出や助言等を行うとともに、他館と連携した企画や事業を実施します。	博物館施設等への資料の貸出件数		15件/年	25件	
			博物館施設等への助言件数	企画展示調査対応、調査研究対応、各種問い合わせ対応の総件数	10件/年	31件	レファレンス対応もとファイル
			連携事業等の実施数	共催、後援、協力を行った事業総件数	1件/年	1件	中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」
			博物館施設等の委員等の受諾件数			4件	埼玉、長野、岐阜県

7 マネージメント(経営)

活動目標項目		内容	評価指標	指標定義・説明	26年度目標値	26年度実績	備考(26年度)
7-1	安全で利用しやすい博物館施設への改善	わかりやすい案内表示とユニバーサルデザインに配慮した、誰もが快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行う。	施設のユニバーサルデザイン化			随時	
			案内表示等のユニバーサルデザイン化			次期情報システムでの検討	
7-2	観覧者サービスの点検と質的向上	案内業務に係るスタッフの対応状況を点検し、改善を図りながら、観覧者サービスの質的向上に努める。	解説員、案内員の来館者対応の点検	職員による点検	随時	随時	
			接遇研修の実施		1回/年	1回/年	
7-3	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	広報活動の強化により、博物館の認知度を高め、博物館来館者のエリアの拡大を図る。	認知度向上のための企画立案		随時	随時	
			利用者層拡大のための企画立案		随時	随時	
7-4	職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の使命、役割を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図る。	研修会・学会等への参加		延30件	延10件	
			他館視察等の実施			4件13名	
7-5	博物館支援組織のあり方の検討	「友の会」会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行う。	県民参画の仕組みづくりについて検討		随時	運営会議で検討	
7-6	博物館活動への理解及び外部協力の獲得	当館が果たしている幅広い役割と活動状況について、広く理解を得る。	博物館予算の確保	博物館予算前年比率	100%	113%	船の科学館助成金含む
			企業等からの協力・支援	企業等からの協力件数	2件/年	2件/年	
7-7	防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震や火災などの発生に備え、文化ホールと連携して防災訓練を実施するとともに、その他様々なシーンの危機管理について万全に備える。	防災訓練の実施	防災訓練実施回数	2回/年	2回/年	
			危機管理対策	各種マニュアルの改善と各職員への浸透		危機管理マニュアル更新・伝達、不審者対策訓練の実施	不審者対策訓練は初めて実施
7-8	博物館評価システムの構築	博物館活動の活動目標に基づく、自己点検評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立し、博物館の業務改善に役立てる。	活動目標の設定		活動目標の設定	活動目標設定	
			自己点検評価	自己点検評価の実施	1回/年	1回/年	
			委員会等による外部評価	外部評価の実施	1回/年	1回/年	
			博物館の業務改善		業務改善運動の実施	業務改善運動の実施	
			博物館評価の公開		HPでの公開	HPでの公開	